



善正寺だより

〒512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎0593-31-1670
☎0593-32-0733

掲示板法話

悲しみを通さないと 見えてこない 世界がある

お正月を過ぎて、寒中見舞いとして拝受したお葉書に、光に包まれたはつとするような言葉を発見しました。

「悲しみを通さないと見えてこない世界がある」(小樽市・Hさん)

それは昨年一年の間に、次々と身内の人たちが亡くなられた愛別難苦の悲しみの中に感じ取られた言葉です。同じような感動は、ごく最近、六十代後半ながら、急なわずらいで往生の素懐を遂げられたTさんの家族からひととき鮮明に頂くことができました。

Tさんは、名古屋のがんセンターにおける精密検査の結果、「余命二週間、手の施しようがない」という厳しい宣告を受けました。そこで、看護しやすい四日市市内の病院に転院。その病院での診断は「余命一週間」と更に短縮されました。普通には、「どうしてうちの主人がこんな病気に...」と取り乱してもやむをえない緊急事態ですが、このご夫婦はそうではありませんでした。日ごろの真剣な聴聞が生きていたのです。「この世の夫婦の時間は限りがあるけれど、お浄土でまた必ず会えるとかねてお聞かせに預かってきましたわね。こんなに早く別れねばならないとは思ってもみ

なかつたけれど、お浄土で待っていてね」と涙ながらに語りかける奥さんの言葉に「ご主人も苦しい呼吸の中で、「うん」と大きくうなずいてくれたそうです。小生がお見舞いしたとき、布教使のK先生から届いたお見舞いの手紙を大きな声で奥さんと一緒に読みました。そのお手紙のしめくりには、『現世利益和讃』一首が添えられてありました。

南無阿弥陀仏をとなふれば

十方無量の諸仏は

百重千重圍繞して

よろこびまもりたまふなり

そのご和讃に導かれるように両手を合わせてご夫婦と一緒に何度も何度もお念仏申しました。小生が病院を後にしてから六時間後の往生でした。

悲しみを通して一層、光に包まれてあるぬくもりを感じさせる世界がある、と教えられました。葬儀の勤めを終え、「間に合ってたよかったです。Tさん有難う」と心よりお念仏申したことであります。



☆行事ご案内☆

2月門信徒会例会

2月21日(日)夜7時半

- ① 親鸞聖人 750 回大遠忌三重組お待受行事について
- ② 宗祖讃仰作法(音楽法要)とご和讃の世界

♪三重組コーラス♪

※2/20(土)夜7時半 小杉練習(遠研の海、第3土曜日)

3月から6月までの4回、午後1時半・智積西勝寺様で合同練習

3/9(火)、4/7(水)、5/6(木)、6/8(火)車に分乗で参加

予定4/25愛知県体育館お待ち受け、5/20三重組仏婦総会、6/27四日市文化会館三重組お待ち受け、7/7名古屋別院音楽祭、2010年度前半は大行事満載、※陽光苑慰問は2/10(水)、ハーモニカ、フラダンスの方に協力依頼。

◇キッズサンガ

※2/6(土)午後4時。お友達誘ってどうぞ

※毎日夕方5時鐘撞きは誰でもOK 鉛・ガム付。年中無休

◇予告

※春季永代経3月20日(土)・21日(日)午後1時半(尾崎裕正先生・奈良)、20日夜は三全仏婦総会(光念寺様)

※初参式4月17日(土)午後、赤ちゃん大募集!

◇一線会テレホン法話059・354・14543分間法話聞けます

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索、「つれづれ日記」が好評



☆ホットニュース☆
☆「報恩講」十一日夜は長男導師の音楽法要、琴・フルートの「春の海」、フルートとピアノの共演「川の流れるように」に「早春賦」など皆さんと熱唱、大盛況。

坊守スケッチ

人は「縁」の中で生かされている



先日温かいお葬式に参列した。葬儀に温かいという言葉は不見識かも知れない。深い悲しみの中にある「遺族には申し訳ないが、故人にはこんなにも沢山のつながり(「縁」)があったのかと、驚くと同時に深く感動した。

「あなたはどういう「縁」関係で参列されたのですか？」と尋ねると、「三代前のお祖母さんが、このお宅から嫁ぎました」。昔は在所同士の縁組が多かった。農繁期には親戚縁者が助け合っ

て手間返しをした。近くの縁組は心強い味方、安心できる存在だった。法事には、お互いに参り合う習慣があつて、近くの親戚や近所の人間関係を大事にした。若い夫婦や子供達にとつても、仏縁を結ぶ人間教育の場でもあつた。この絆を「土徳」というらしいが、都会ならば、遠くの昔に切れてしまった

ご縁が、我が地元ではまだ残っている。しかし、その絆がいつの間にか切れてしまつて、淋しいお葬式に遭遇することもある。多分これは、冠婚葬祭が業者任せになつてしまつた二十一世紀の初め頃からではないだろうか？

最近大手の葬祭業者は、困っているらしい。団塊世代がリタイアして、高齢者の親を送るのに、かつての職場関係の付き合ひは不要。さりとて近所付き合ひ、親戚付き合ひも濃厚ではない。極僅かな親戚が寄つてお見送りする「ジミ葬」が多いらしい。それはそれでいたし方ないとしても、親とは離れて住んでいたために何も教えられず、いざ葬儀となると戸惑い、葬祭業者のマニュアルに添つた葬儀が進行する。また老人ホームから直葬する場合に、親の人生の終末に関わつていないので、親の寂しさも悲しさも分からない。親自体も子供には世話にならないといつて、子供に伝える努力をしないところ。ところで報恩講のお手伝いに来た人から、お孫さん達の微笑ましい出来事を聞いた。二人の女兒は共に小三で、寺のキッズサンガに通つている。お墓の近くの珠算塾にも通つている。「仲よし二人組は、珠算塾が終わるとお墓に立ち寄つて花のお水を換えてくれるのですよ。花の水が腐りやすい夏場や、忙しい時にはお助かり。先ず墓地の入り口で一礼をしてから自分の家のお墓の前に行き、毎日水換えをして合掌礼拝。頼んだ訳でもなく、年寄りがするのを見て覚えたのでしよう。自発的にお手伝いしてくれる優しさが嬉しい」と言われた。この子達は三世代同居だから、祖父母のすることを真似て覚える。しかし核家族の場合は、親世代が「人は「縁」の中で生かされている」という一番大事なことを伝える努力をしないと、思いやりのな

い淋しい子供が増えるのではないだろうか？家族の介護や葬儀の現場から何かを学び取る子供達を育てたい。

☆善正寺のホームページ「三重 善正寺」で検索可。毎日更新の「住職と坊守のつれづれ日記」が好評。開設一年六ヶ月で一万余人以上アクセス達成！

☆除夜の鐘 聞き終え次に 月食と寒さ堪えて 待つ初日の出

☆遠き日は 岡持ち提げてお朝事に 想いは遥か 彼の大根汁

☆少量は 掃く甲斐無いし多量なら 難儀と心 落ち葉揺れる

☆浮き雲を 茜に染めて 往く夕日 その一瞬を 光輝く

☆頼もしや 孫のランドセル 春を待つ

☆勢いがある時寺に行き 普通の時寺に行き 勢いが無い時寺に行く

☆二月二十日(土)夜小杉練習(連研があるため第3土曜日夜)

☆3月9日(火)午後1時半

☆4月7日(水)午後1時半

☆5月6日(木)午後1時半

☆6月8日(火)午後1時半

小杉は午後1時に、車分乗して出発

※二月十日(水)午前・陽光苑慰問

☆平成二十二年度前半コーラス行事

☆四月二十五日(日)東海教区お持ち受け法要・愛知県体育館・組曲正信偈

☆五月二十日(木)午後、三重組仏協總會(下海老明林寺)音楽法要

☆六月二十七日(日)三重組お持ち受け法要・四日市文化会館・音楽法要、「しんらんさま」念仏

☆7月7日(水)名古屋別院音楽祭

キッズサンガ・杉の子合唱団

◇二月六日午後四時より。お友達と来て下さい。夕方五時の鐘撞きは毎日。

カンバ有難う☆

片山たか子様・松岡愛子子様・KH様・HY様・本田和子様・澤田美智江様・岡本結輔様・KA様・芝田きよ子様・IA様・栗本洋子様・伊藤しづ子様・藤井義明様・加藤由紀子様・大久保紀代子様・森秀雄様・高橋智恵子様 他お志・切手有難うございました。

お悔やみ申し上げます

★鎮西治権(一月十七日亡・六十七歳)

善正寺世話方として貢献 合掌

★願部一民権(羽津山・一月十八日亡・八十一歳) 合掌

☆編集子より ☆

「善正寺だより」第一九四号をお届けします。◇歳末にテレフォン法話集「心の眼は開いてますか」出版。近くもう一冊

坊守との共著も刊行の予定です。◇その中に、沢山の「門徒さん」が登場。ご門徒とのふれあいの中で仏様のお働きを

実感します。お寺は光を感じさせてくれる場所なのだと思わうこの頃です。

大寒が過ぎ立春を迎える頃が一年で一番寒さが厳しいように思います。冬の寒さに堪えながらつぼみを育んだ白梅や雪の中に凜として咲く水仙を見つげると励まされる思いがします。ある日突然医師から「余命わずか」と告げられたならばあなたならばどうされますか？ 私ならばうらぐえ眠られない日が続くと思います。私が初めていのちに限界があることを意識したのは二十歳。胆石を手術した時でした。死を見つめる心は岸本英夫著の本を読み心を落ち着かそうとしました。坊守になつて35年、生と死の問題についてお説教を聞ける境遇にありながら、肚が据わらない自分を恥しく思います。「余命二週間」と宣告されたご主人に、奥様が「この世で夫婦でいる時間は残りわずか、しばしの別れであるが、必ずお浄土で遇えるからね、待っていてね」と固く約束をされたそうです。そばで見ている息子さんか「お母さんは子供のことが一番大事に思っていてくれると思えたが、お父さんとお浄土でも夫婦になりたいなんてそれ程好きだったの？」と羨むほど。ご夫婦は連研を受講され、そろそろ聴聞に励まれました。こうした素晴らしい念仏者に出会えたことは、お寺の人間として喜びです。私達も限りあるいのちを自覚し、一日一日を悔いなく大切に生きたい。それが先立つ人の私達に残された命がけのお説法だと思えてなりません。二月の三重組コーラスは20日(土)夜、例会は21日(日)夜です。風邪など召しませんようにくれぐれも、自愛下さいませ。合掌

平成二十二年 二月

善正寺坊守 輝